



慶應四年戊辰五月十五日

內外新聞 第五

知新館

西垣文庫
文庫 10
7348
5



持 文庫10
7348
5



内外新聞第五

神戸新聞譯

第六月廿日
我五月四日

○方今ニ至リテハ當地ニ居留スル人民稍蕃殖セリ然ルニ余等甚タ病ル如ハ當地ノ路傍并溝中等諸所ニ不潔ノ物塵芥類多ク此為ニ頃日流行セルコレラ病追々傳染シテ速カニ減スマジ就テハ早速政府エ再願シテ不潔ノ物ヲ取除カンコトヲ欲ス

土地ノ氣候ニ馴レザレバ万事配意スヘシ先日ヨ

西頭文庫

リ雇ヒシ不淨物掃除ノ番人ハ甚懶惰ニシテカ
ヲ用ヒズ尚精出スベキヲ諭サント欲ス掘切ニ埋
レ込ミタル塵芥及ヒ屑石土砂等ヲ掃除ニ是
ヲ海邊ニ置ザル様ニ若此類濕氣ト暑氣ト混シ
ナハ更ニ惡臭ヲ生ジ大暑ノ時分人身疾疫ノ
害ヲ為サン

大坂ヨリノ報告

○當方居留地ハ政府ノ監察出張シテ多勢ノ
雇夫ヲ指揮シ大ニカヲ尽セリ此趣ニテハ遠カ

ラズ成就スベシ

○外國人市中雜居ノ免許アリシ上ハ政府ニ於
テ高價ニテ地所ヲ買上ベカラザルヲ察セリ

○過シニヶ月ノ頃銅錢ニ倍ニ騰貴セリ以前十二
文錢ヲ以テ天保一文ニ換シニ今六文ヲ以テ

一文ニ替ユル先年来多分ノ銅錢ヲ支那エ運送
セシモ爰ニ於テ止ルベシ

賣買物相場 入港物

○諸品相場ハ先日ヨリ衰リナシ頃日連日ノ

雨天ニテ日本商人品物引取等ニ大ニ困リ入り
居レリ當節賣品ハ黒吳呂并ニ短キライフル
銃ノ外注文更ニナシ

出港物

チタナムレンソダイノ生糸少々先日ノ價ヲ以
テ買入レシ當時賣品甚ダ少ク殊ニ望ミニ應ゼズ
次第ニ新糸ノ時節ニ至リ今廿日余ヲ過ギナ
バ新糸入来ルベシト余等頗ニ此ヲ待テリ
奥州百斤付五百廿兩ヨリ五百卅五兩マテ

ソダイ 四百五十兩ヨリ 四百七十兩マテ

越前 四百十兩ヨリ 四百廿五兩マテ

茶モ遠カラズ新茶入来ルベシ當時ノ新茶ハ
古葉ヲ交ヘヌハ見カケ見苦シケレバ甚ダ此ヲ
嫌ヘリ此見カケノ悪シキユヘンハ急速ニ仕出シ
セントシテ製法行届カザルガ故ナリ

前日買込タル新茶ノ價ハ甚ダ不相應ナレバ今
爰ニ茶ノ價ヲ記サズ

○薩長ノ兵隊新瀉エ着ノ由ヨ聞リ此ノ實ニシ

テ且勝利ヲ得ルニ至ラバ外國人ヲシテ彼地ニ
住スルコトヲ得ベシ既ニ彼地居留場ノ用意セ
ラレシ由ヲ聞リ此後ヨキ報告ヲ得バ或商人ヲ
伴テ速ニ彼所ニ赴クベシ

○第六月廿四日 我五月五日 今朝テスハツ午着ニ依
テ本月十七日 我閏四月廿七日 新聞紙ヲ得テ左ノ事

件ヲ拔萃セリ
昨日數多ノ兵隊ヲ乗セテカバノカニ各船江戸ヨ
リ来リ港中ニ碇泊シ南方ニ運送スル人救并

糧料等ヲ積込タリ米國全權公使ハ同國イロ
クオイス船ノ船將ト一致シテ小舟ヲ以テ水師ヲ
送レリ

○三條大納言殿ハ先ニ徳川家トノ間ニ起リタ
ル大難事件ヲ裁断スルノ全權ヲ蒙ラレ京
師ヨリ發シ水曜日江戸エ着セラレシ

○第六月廿五日 我五月六日 米國飛脚船コスタリカ名船
横濱ヨリ長崎上海エノ便ニ當月卅日 我五月
十一日 當港エ着一昼夜碇泊スベシ旅人并荷物等

有ラバ神戸スミツ、ベークル社中ニテ申来
ルベシ

○長サ二十六尺ノ小舟一隻帆柁并日覆等
備リタルモノヲ賣拂ニコトヲ欲ス若買ニト欲セ
ハ神戸ジ。テ。カルロル社中ニテ申來ルベシ

以上

四月下旬越後より信州路と經て

京師、來りて孫右の物結

○脱走く歩兵多飯山の城下に来り隊長古屋
佐久左衛門より城内に言送りけるは禁是より
松代表に立越候は故城昔當藩より松代に應
接及及びむりるむりとの儀をり依り飯山藩
鈴木素と士と松代に寄り談判及及びり結
又松代藩に於ては脱走人共と城下不在留り
らるる其其之と不傳との事より大強論と成候

鈴木系と討死したる由も不中と飯山より古巻
返答ありしうども今一應談判のつゝ異言く旨
賊方強て中込付きて使者を松代に送りしに
松代藩より返答も不及使者に送りしに直
軍勢と繰出し飯山の勢を以て事飯山
えけよ此集の歩兵多飯山藩と手合と合し
千曲川を隔て防戦及たり然るも松代勢より
賊隊に打掛る銃砲より怪我人ありとも飯山勢に
打出せしむ人と扱はる松子なく又飯山の兵隊も

松代勢に勢をとり時も同様なり爰に於て賊兵
不審を生し潜り飯山の陣と窺せし小果し
双方より空砲しく打合居り依之賊軍初めし殊
計は陥入るを曉く大に怒り忽ち飯山の兵隊に
砲費し戦事及ふといふも双方より打立られ
終に飯山一飯山城下真宗寺と云寺院に逃込
りし松代勢引続て押寄せ大砲を打ちし其は
此亦も遠く射く城下の民家へ火を放ち煙を
きく礼妨拍と働きて越後路に放走を松代飯山

兵を合して追討し大に勝利を博する由
傳こ曰く五ヶ所松代にて於本系を討たし
再度の使者を止めしるも西藩内應の謀計
にて城を欺きたるなりと云ふ

右の歩兵等初め高田へ来り荒井村と云ふ所
集せる内は惣兵又百人の内百三四十人飯山
に又追ひ荒井村より飯山へ應援の爲に繰出
一町に設軍して再び荒井村に逆集りし度
高田藩及び信州勢は打立てし軍器長持松

打撃を散らし退きたり隊長古屋統久たる
ハ落行中務源も逃と云者ハ討せし由

上州権田表平定の況

○旧幕府旗本を外國奉行たりしと云小栗
上野外ハ上州松井田原より三里北なる権田ト云
つる領地ニ引籠り居るなり如日所ハ脱走人屯集
せし由其間あるに因り四月月上旬高崎藩安中藩
外一藩不詳に討ちの命を蒙り破地へ發向し談判
及及び上野外津伏器械を官軍に請ふ事故

すく平定せりとて

又説又閏四月七日高崎安中二藩より人救を以て
向上野外及び嫡子亦一節を擒錮して同九日
岩倉殿の所陳武政忍に送せりと

二説大同小異何れを以て知れん
兩説を記して世人の辨別を待つ

京都新軍

○近日江州大津裁判所を大津勘定所と改ら
せしむる藝及藩系同小左勤なりと

○防兵岩國吉川候と緒藩の列に加くると
武備も紋繪等を記して近き費はる由

○五月十日薩兵の兵隊東方に繰出せり
同下旬より國元より引千余人の新よ上系の
風聞あり

○同九日夕七ツ時以四糸通祇園町にて馬上
の士に斬るをたす狼藉者あり然るに近來
る馬ぢり板打外一馬の尻と切付し彼の
馬躰あがり時又狼藉者を蹴倒し走り

予^すより如何^{いかう}なるを^{まじ}強^{じやう}なりや其^{その}来^{きた}由^{よし}を聞^きく
他^た日^ひ發^{はつ}の^の新^{しん}軍^{ぐん}の^の紀^きを^をべし

○若^わ州^{しゅう}小^{せう}湊^{みなと}志^し州^{しゅう}を^を羽^はの^の二^に藩^{はん}に^に仰^{おほ}す^まて^て御^ご不^ふ
審^{しん}の^の廉^{れん} 御^ご免^{めん}なり^{なり}し^しと^と云^いふ

○同^{どう}四^し月^{げつ}下^げ旬^{じゆん}議^ぎ定^{てい}職^{しやく}の^の諸^{しよ}侯^{こう}に^に官^{くわん}位^ゐ 宣^{せん}下^げは
作^{しやく}出^{しゅつ}受^う越^{えつ}前^{ぜん}侯^{こう}及^{およ}び^び肥^へ前^{ぜん}侯^{こう}より^{より}或^{ある}方^{かた}様^{さま}に^に御^ご禱^{たう}

以^も由^{よし}糾^{きう}尤^{ゆう}き^き書^{しよ}付^つひ^ひ越^{えつ}前^{ぜん}侯^{こう}より^{より}或^{ある}方^{かた}様^{さま}に^に御^ご禱^{たう}
退^{たい}の^の知^ちせ^せし^し御^ご使^し者^{しや}の^の口^{くち}上^{じやう}を^を

今^{いま}般^{ぱん}議^ぎ定^{てい}は^は作^{しやく}付^つは^は又^{また}從^{じゆ}二^に位^ゐ權^{けん}中^{ちゆう}納^{なつ}言^{ごん}

宣^{せん}下^げは^は御^ご付^つ官^{くわん}位^ゐに^に儀^ぎを^を御^ご禮^{らい}録^{ろく}に^に御^ご知^ち
は^は聞^き召^{めし}右^{みぎ}為^なし^し知^ち以^も使^し者^{しや}の^の口^{くち}上^{じやう}を^を

五月三日 越前宰相使者 山野濯二

○京^{きやう}師^し下^げ立^た賣^{ばい}通^{つう}妙^{めう}の^の寺^じ門^{もん}前^{ぜん}何^{なに}来^{きた}の^の家^けに^に
天^{てん}氣^き快^{かい}晴^{せい}の^の時^{とき}と^とい^いふ^ふも^も淺^{せん}洗^{せん}米^{まい}大^{だい}臣^{しん}等^らの^の如^{ごと}く
何^{なに}の^の方^{かた}より^{より}も^も知^ちら^らず^ずと^と傳^{でん}は^は来^{きた}る^る由^{よし}當^{あた}り^りの^の如^{ごと}く
怪^{あや}し^し吳^ご孫^{そん}増^{ぞう}屋^え夜^やと^とい^いふ^ふ家^け内^{うち}に^に鑿^{さく}斗^と純^{じゆん}令^{れい}妙^{めう}

土器に拵餅菓子燻燻紙墨筆等々外精急の念
 物業等の諸品降り来る年 今よふ止是ハ全
 く其家又ある法守稻荷の奇蹟なりとて此
 日玉子社と再建して尚灵應ある由と耳に
 論者曰昨夕年冬京抄及び諸品又神符と
 降りし令残諸物を降りし時怪異あり
 右の怪異も同日の疾くして敢る奇と云ふ
 是れども又信ぜざるもあらずと云ふ然り
 と之れも童幼婦女子とて起る事有る

見写と傳くしめさるるハ妖人狐狸の爲
 欺るるの患ありと除る人と爰又記す

江戸町人共款紙書の寫

右紙以書付有款紙ハ
 一私に云下紙ハ此と以恐と不願有款紙
 人儀ハ此ハ幸恐入る一古是と主教平来米
 平ハ河見澤浴ハハ全
 天朝并徳川家の此見澤ハ此ハ至今日
 此ハ河場合下紙ハ目ハ更ハ有ハ此ハ

毎以登之共追、町奉行所より市中に
觸出、書付等の趣、その九、恐東
山、鐘、怪罪、此一、此、列、請、諸、人、の、苦
を、救、い、を、お、お、厚、キ、思、石、程、如、何、を、と
能、有、幸、恐、入、海、泣、く、至、此、此、此、然、ル、又、こ
追、河、先、鋒、以、縲、入、お、成、い、付、市、中、一
一、同、昼、夜、殺、食、を、志、を、恐、編、在、人、何、を、
廣、大、い、此、悲、を、此、下、く、者、此、と、安
仕、振、の、憐、愍、く、此、沙、法、を、成、下、並、人

振一同在形上いひ

四月又日

連名
九十四人

右、河、先、鋒、の、宿、所、に、出、て、款、取、書、を、
約、込、巢、鴨、小、石、門、音、羽、大、塚、谷、中、本、郷、
首、坂、四、町、人、惣、代、加、判、り、書、面、を、り

越後鯨波戦争第一の報告ハ既ニ
第四編ニ載セリ今又第二報告
と得たりたの如し

○岡田四月廿七日録波の城徒共加州薩沙長州
 高田勢日押詰られ放走す則官軍透る
 追打進こみぬ右城徒共城山側の松原屯集
 一浮浪衆と一勢お成り半途より引返す
 大勢と張り官軍と拒み大小砲打出ぬ
 官軍一回攻勢猛烈なる戦争とお成り内敵
 の奇計ニ以て味方打ト一回高きお嶮い牙
 務るも死す間道に廻し人殺すも有る
 炎火と打方止ノ濱手にかけ引揚透る人ぬ

款より尚頻りに放逐す及及を款の策す
 と是を直にお向激戦せし就中加抄の大砲の
 絨軍の必要めするおに打込て多分の死傷
 もあり城勢弱り人於地敷も有る遠にお成る
 追撃す夜を待たざるも參謀折田平内も
 日暮にお成殊に手負とあり今日ハ休兵す
 と指圖に及つり加州後陣二小隊繰出同にお
 志ノ先陣号本陣青海村に引揚は款の旧
 幕歩兵組及び素名院藩兵千人中もあり中

拍崎に追く為集り以俸又五之は戦争滅後
死傷多しと能も要害又接り弾薬も多しと
えつて後交打立官軍も子負多しと
久し。柳境まで極烈に戦ふ由加州先鋒の隊
長物以高島猪方夫洗登し進之総統士と励
し其此右の肩と打貫と子負と之も引揚
と始終総子と指揮し全く勝利を博し大
砲台隊司令橋本一進も格別上勲しと云
山道に進し加州勢物以橋本美和助総統

子の内ト八九人歎と観打つて例甚も歎
一人で討五人由そ外産長高田智も切石ホ
あつても委細分り兼人由

社中より布告二端

○神戸新聞譯中、ある如くコレラ
病流行し
乃せんとする由去月己未の氣候こそは彼の地は
不限傳染流行す由ト死すもの世に早く消
獲保全あり其大概をたし記を
茶葉を家内にて煮べり
茶葉と云て求むべし

又杜松子 小豆の屑と葉もとろし
 右も強き夜具衣乾多し合し雨濕の氣を
 拂ふなり 扱系のこし

大紫胡湯 人の生質いまだたよりて茅硝石せうせきを
 加減かへんあり

升麻葛根湯

右の類を用いしみづらる肉にくある雨濕の氣を辨わべ
 一飽食いっぼうじき大酒消和たいしゆしょうわあり物肉食ぶつにくじき亦用またもちゆ
 一公こうと芳ほう一いち元氣げんきとるとるとるとを情じやうし
 右の病やまひをひひする用もち公こうありあり疾やくいい医家いけ同どうごとく

三蟲油さんちゆうと云い金瘡きんそうの妙茶めうぢや

一雞卵いちけいらん 皮かわと去とる 一蚯蚓いちぢゆうりん 其そのま

一蝸牛いちかひぢう 殼かと去とる

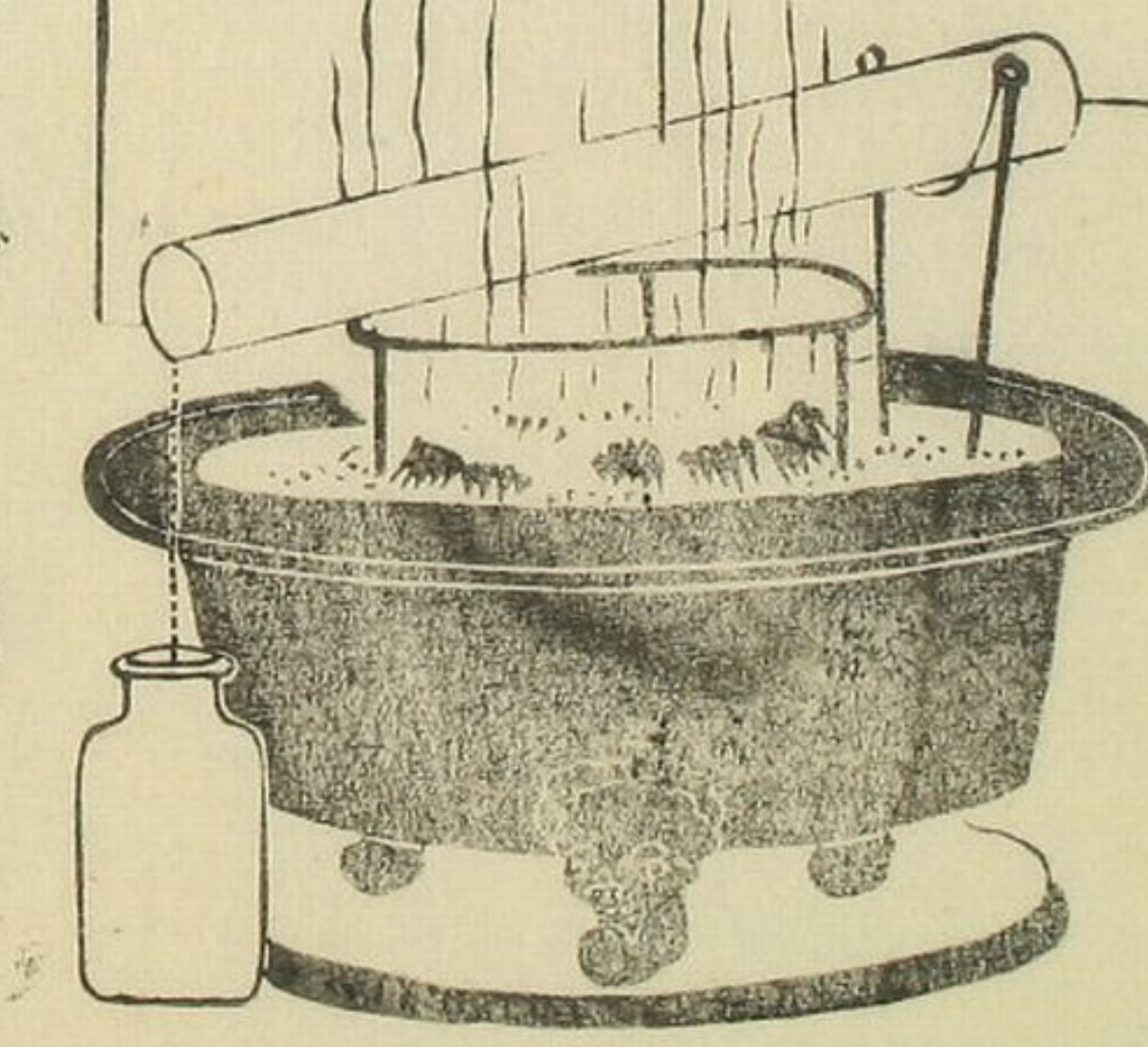
右一種みづら花はな別べつは搗つきたららら鋼管かうかんの中なかに
 諸しよ品ひんの如ごとく文武火ぶぶくわにかけ膏かうをととり
 引ひいて後あと三種さんしゆと合あへある器うつわに入いれ貯たくわふ
 燈あかり一いち用もちゆら時とき其そのまま疵きずは流ながし込こめ
 本もと綿わたとと膠かほくとと墨すみととたた何いかに程ほどの深ふか瘡かさ
 こそこそも奇き妙めうな治ちる由よし世よの好こう士し閑暇けんげの時とき

製^作 紙^を 世^に 經^験 ありんるを 希^ふ

膏^を 取^る 図

洞^の 管^の 真^中、兩^方 均^に 燒^き 透^す 火^を け^る べ^し

管^を 燒^き 透^す 火^を け^る べ^し



此^の 小^に よ^う 均^に 一^つ 燒^き 透^す 火^を け^る べ^し

古^金 永^世 卷^き 小^割 書

一^朱 金

百^兩 代 二^百 二^十 七^兩 一^分 三^朱
 一^兩 代 二^支 一^分 永^十 四^支 三^七 五

古^二 朱^金

百^兩 代 二^百 六^十 支 三^朱
 一^兩 代 二^支 二^分 一^朱 永^三 十^九 支 三^七 五
 二^朱 代 一^分 一^朱 永^十 二^支 七^三 四^三 七^五

保^字 金

小^割 共^一 分

百^兩 代 三^百 九^十 六^支 二^分 一^朱
 一^兩 代 三^支 三^分 三^朱 永^廿 八^支 一^二 五
 一^分 代 三^分 三^朱 永^廿 三^支 九^〇 六^二 五

安政

二分判

百兩代 百六十一支三朱

一兩代 一五二分一朱、永四十九文三七五

二分代 三分ト永五十五文九三七五

百兩代 三百十七支一分

正字金

一兩代 三支二朱ト永四十七文五

一分代 三分ト永四十三文一二五

右の永銭（さいせん）の時の差（さ）お拂（おひり）をか多（おほ）て永何文の代差何百何十何文と云ふを知（し）るなり

知新館告文

此社中ニ於テハ珍貴ニ諸相庭物等ヲ記スノ本意ナリ
又館外ノ人タリテ切能アル事ヲ衆人ニ示サンカ或ハ書
籍等ヲ彫刻セント欲セラル、凡ハ此社中へ御示談ア
ラハ速カニ廣ク海内ニ布告スベキ者ナリ

浪華



知新館

大坂心齋橋本町此入	河内屋忠七
同 北久太郎町四丁	河内屋清七
京都四条河原町西入	山城屋勘助

弘通所

同	同	同	同	同	同	同
寺町姉小路上	富小路四条上	三条寺町西入	御幸町姉小路上	京都三条御幸町角	北久太郎町四丁	大坂心齋橋北久太郎町
錢屋惣四郎	丁子屋榮助	吉野屋甚助	菱屋孫兵衛	吉野屋仁兵衛	河内屋新次郎	河内屋喜兵衛